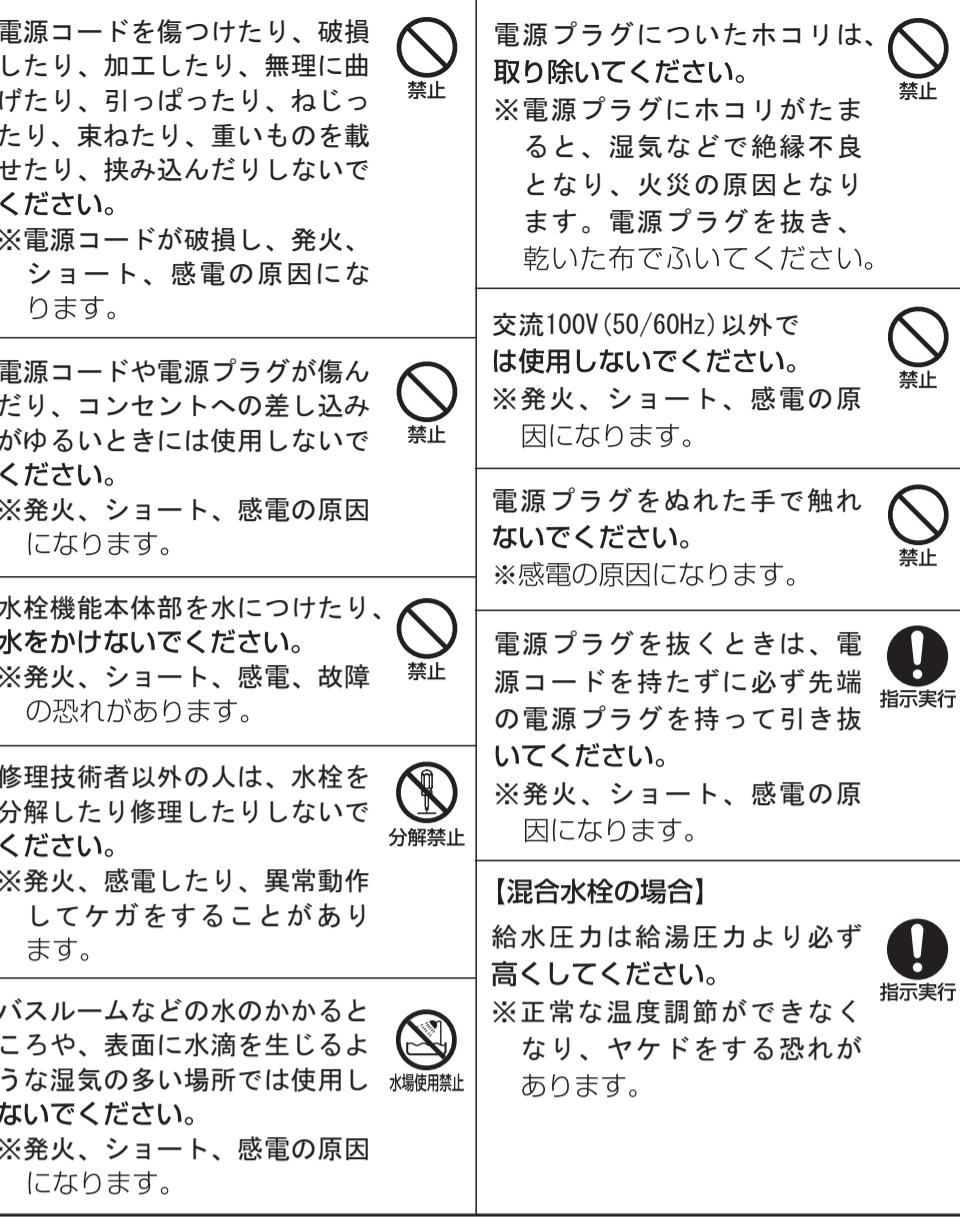


警告



施工方法

1 給排水管の位置決め、取出し

標準施工図にしたがって給水管・排水管を取り出します。
() 内寸法は、手洗器アフレ縁高さ(850)を基準にした参考寸法です。

注意点

- 器具取付前に給水管・排水管に異物が混入しないようにしてください。
- 給水管にはプラグ(LF-7T)、排水管にはビニール袋等でカバーしてください。
- 強度確保のため、次のような補強をします。

[木造壁の場合]
下地に24mm以上のJAS規格合板相当をご使用ください。
※補強木は構造体との固定を行ってください。
※感電の原因になります。

[コンクリート壁の場合]
取付部の奥行きは75mm以上(コンクリート厚40mm以上)を確保してください。
※AYボルト(AY-34(1P):6本)は別途用意ください。
※強度が不十分でと陶器が傾き林の中に水が残ったり、壁の間にすき間が発生する恐れがあります。

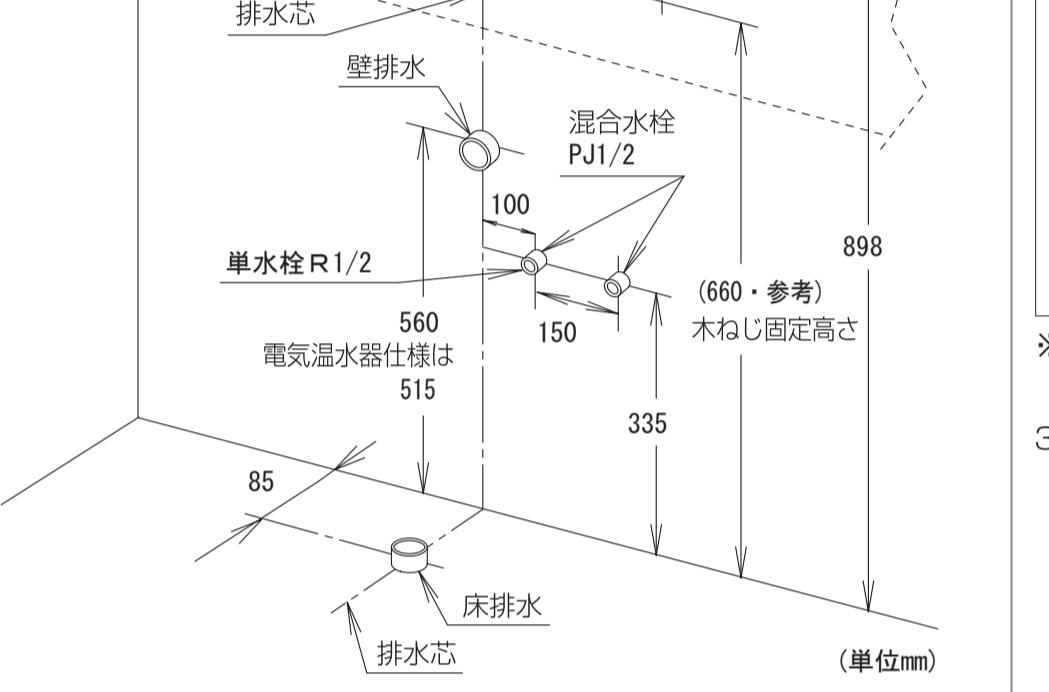
[混合水栓の場合]
給水圧力は給湯圧より必ず高くしてください。
※正常な温度調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

※電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みが無いときは使用しないでください。
※発火、ショート、感電、故障の原因になります。

※水栓機能本体部を水につけたり、水をかけないでください。
※発火、ショート、感電、故障の原因になります。

修理技術者以外の人は、水栓を分解したり修理したりしないでください。
※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。

バブルームなどの水のかかるところや、表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では使用しないでください。
※発火、ショート、感電の原因になります。

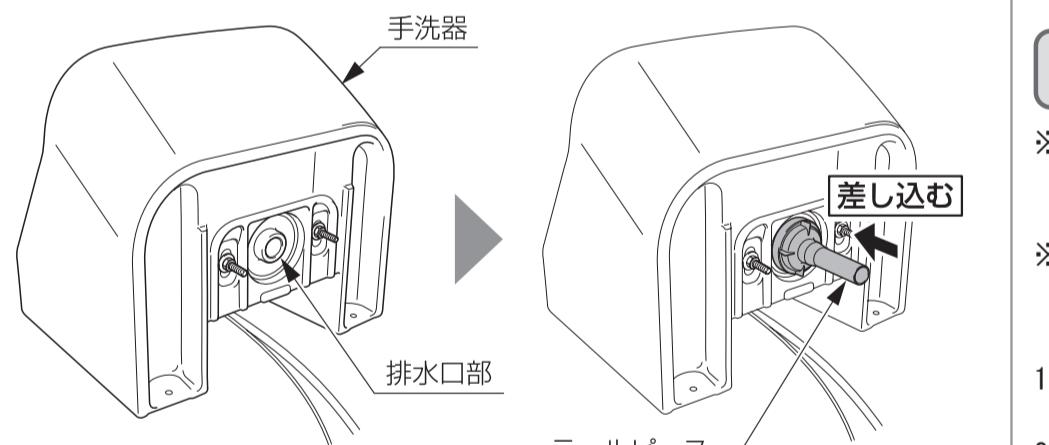


2 配管内の清掃

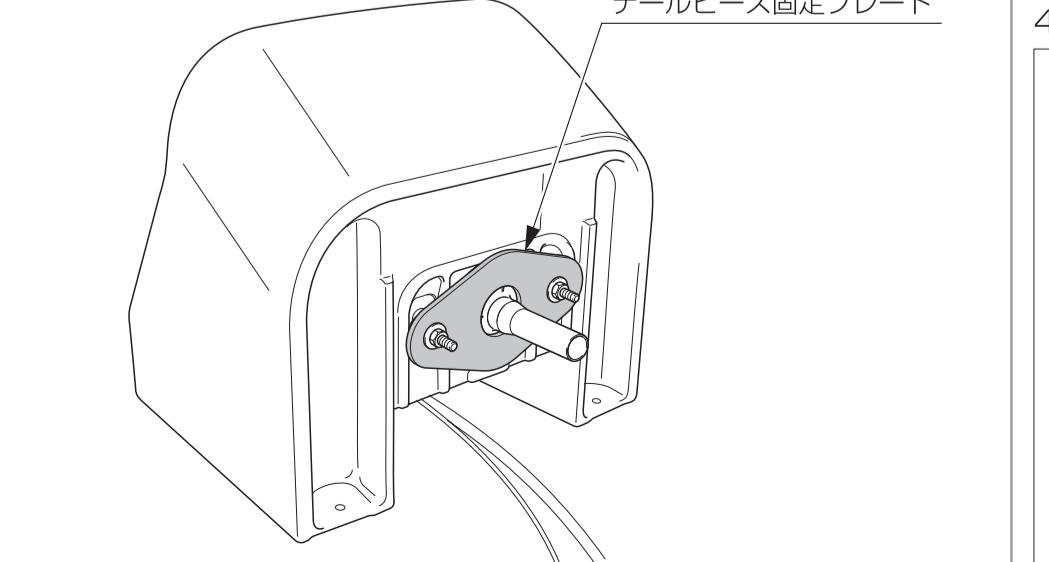
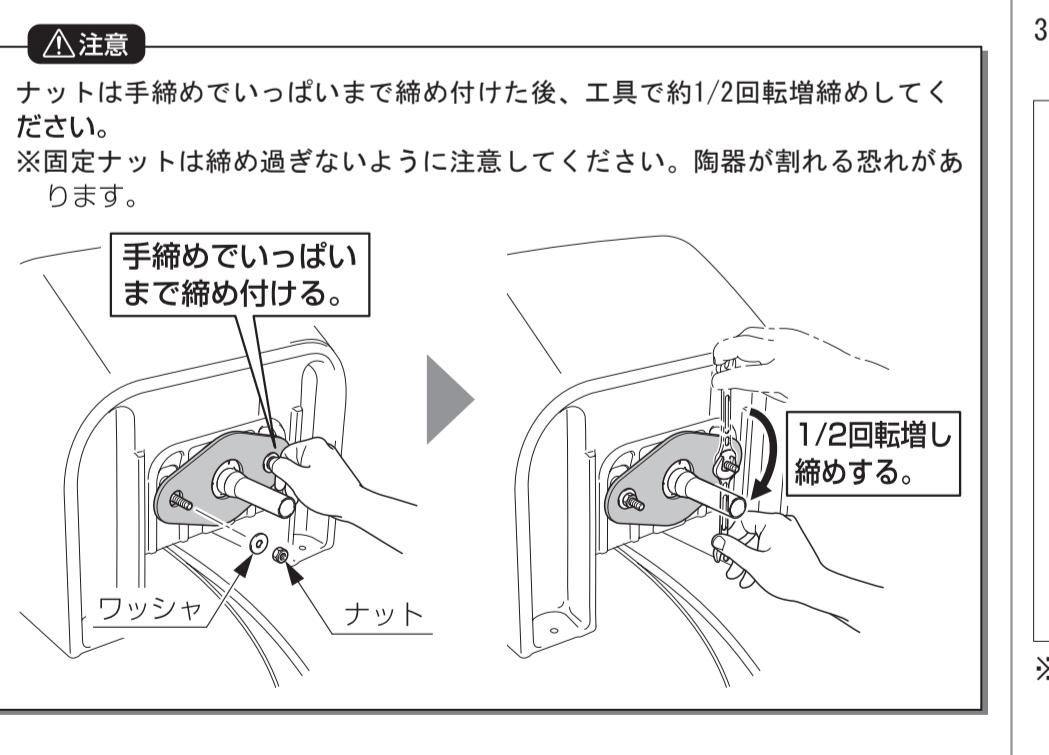
手洗器を取り付ける前に必ず配管内のゴミ、砂等を完全に洗い流します。
※給水管の防露対策は必要に応じて現場で行ってください。

3 テールピースの取付け

1. 梱包から手洗器を取り出し、手洗器底面排水口部にテールピースを差し込みます。



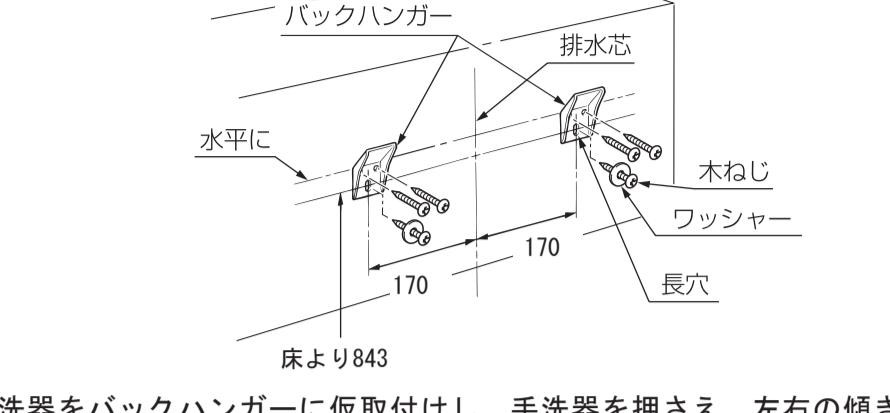
2. テールピース固定プレートをナット・ワッシャで取り付けます。



4 手洗器の固定

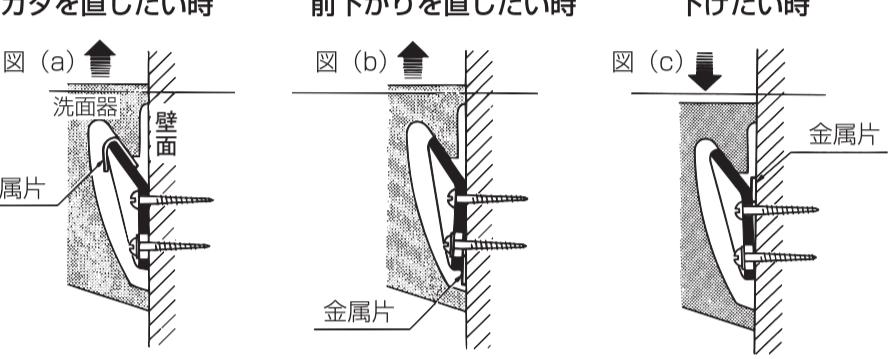
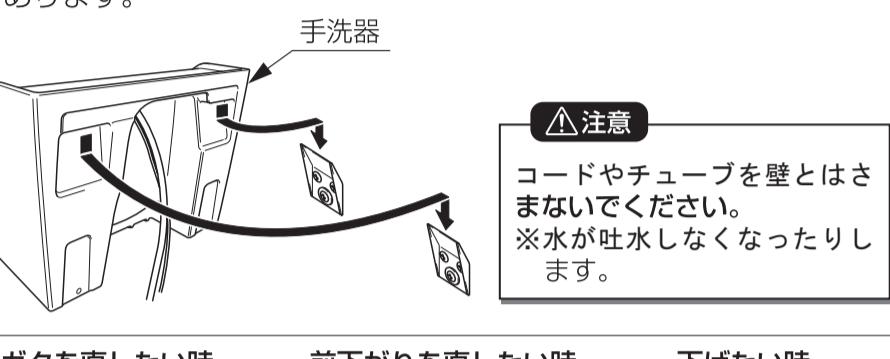
1. 下記の壁面の所定位置に、左右のバックハンガーが各々傾きのないよう、また、左右の高さが同一水平面にそろのように正しく取り付けます。

壁付け施工例



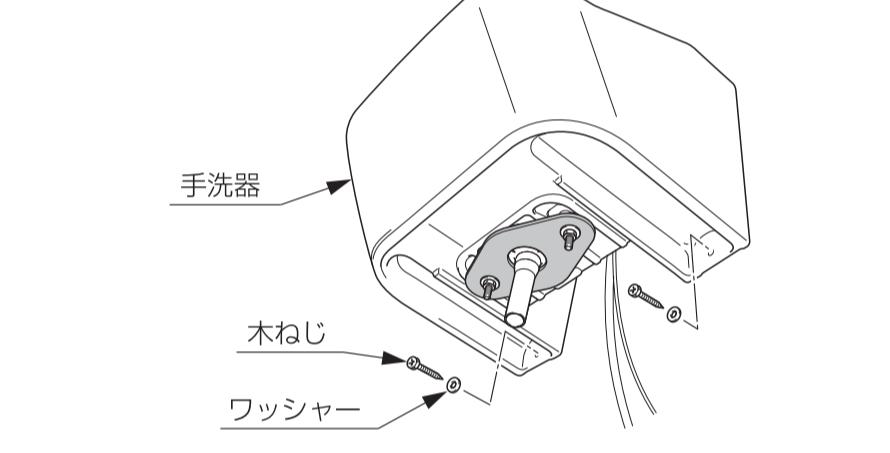
2. 手洗器をバックハンガーに仮取付けし、手洗器を押さえ、左右の傾きやガタつき、前下がりを確かめます。傾きやガタ、前下がりのある場合は、金属片の小片を下がっている方、またはガタつく方のバックハンガーの上面(図a)に折り曲げて、また陶器の前下がりを直したいときはバックハンガーの下部(図b)に、下げたいときは上部(図c)に金属片をはさんで陶器が水平になるように調節してください。

※強度が不十分でと陶器が傾き林の中に水が残ったり、壁の間にすき間が発生する恐れがあります。

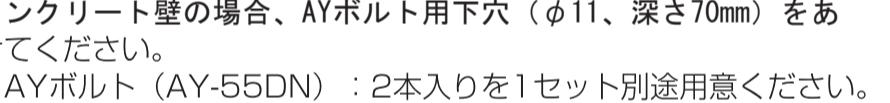


※コンクリート壁の場合、AYボルト用下穴(φ11、深さ70mm)を開けます。

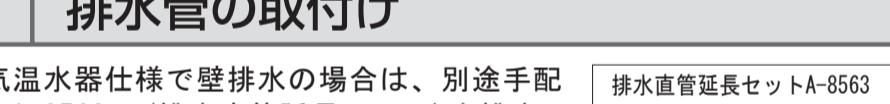
3. 手洗器下部を壁面に固定します。



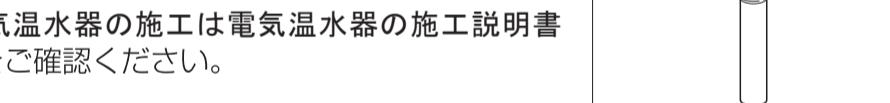
4. バックハンガーの木ねじを締めます。



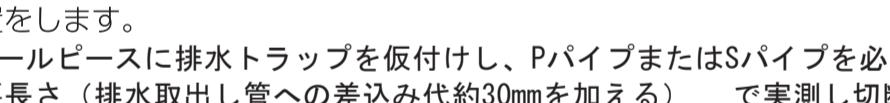
5. バックハンガーの木ねじを締めます。



6. フロントケースを固定します。



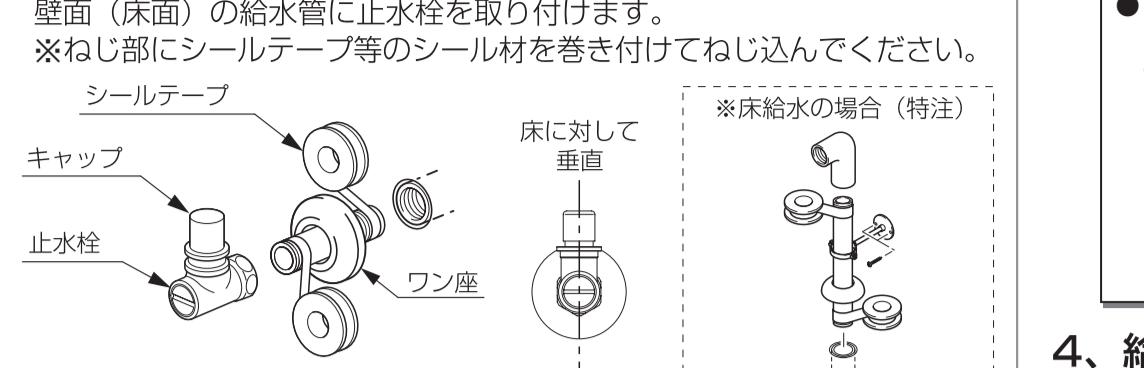
7. フロントケースを固定します。



6 給水部材の取付け

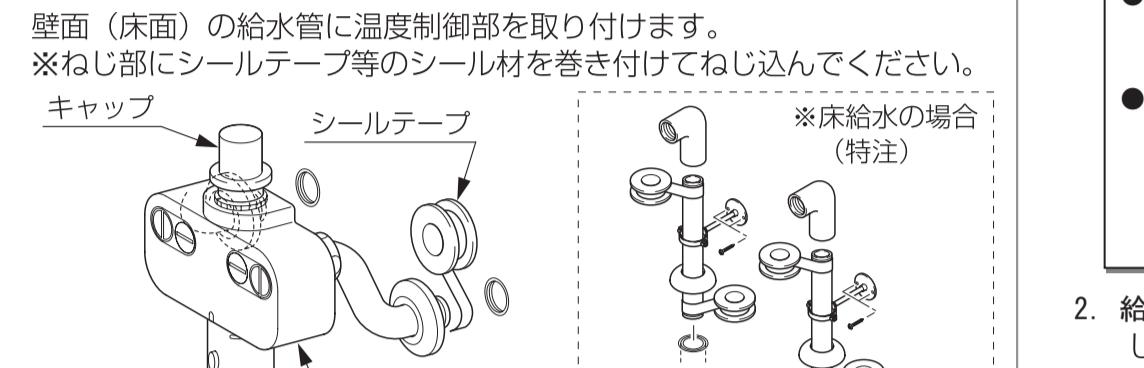
1. 止水栓の取付け

[単水栓の場合]



※注意 キャップは機能本体部を接続するまで取り外さないでください。
※キャップ内のOリングが傷つき、漏水の原因になります。

[混合水栓の場合]



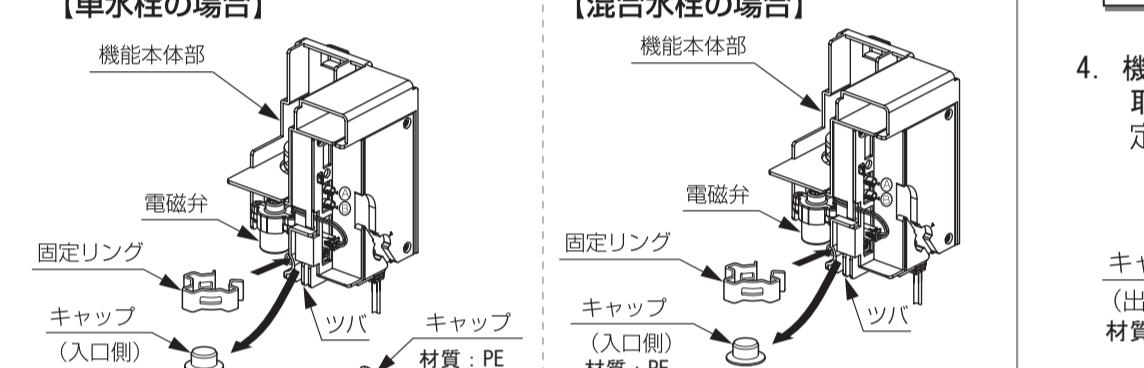
※注意 キャップは機能本体部を接続するまで取り外さないでください。
※キャップ内のOリングが傷つき、漏水の原因になります。

2. 給水チューブの接続

1. 給水チューブが折れ曲がらないように必要な長さを確認し、切断します。

※注意 キャップは機能本体部を接続するまで取り外さないでください。
※キャップ内のOリングが傷つき、漏水の原因になります。

[混合水栓の場合]



※注意 キャップは機能本体部を接続するまで取り外さないでください。
※キャップ内のOリングが傷つき、漏水の原因になります。

3. 機能本体部の取付け

以下イラストはAC100V式の場合を示します

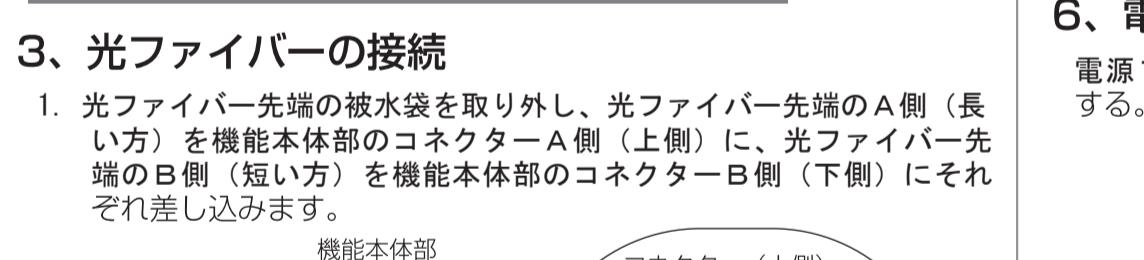
1. 止水栓のキャップと機能本体部の入口側のキャップを取り外し、機能本体部が正面を向くように止水栓のツバと機能本体部のツバが接するまで差し込みます。

[単水栓の場合]



※注意 錆びたストレーナーを外さないでください。
※ストレーナーが漏水の原因になります。

[混合水栓の場合]



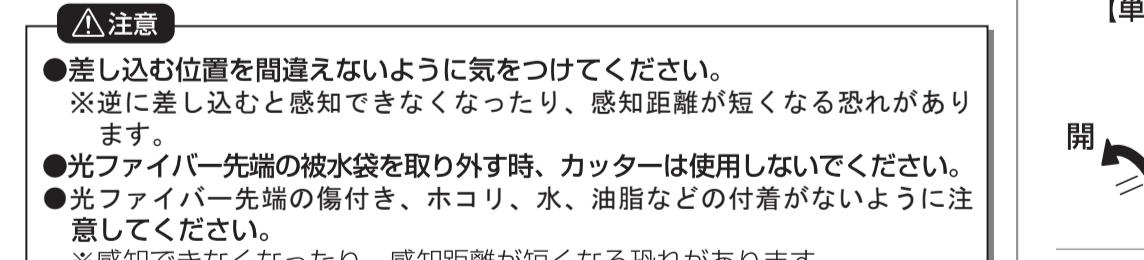
※注意 錆びたストレーナーを外さないでください。
※ストレーナーが漏水の原因になります。

4. 機能本体部の取付け

以下イラストはAC100V式の場合を示します

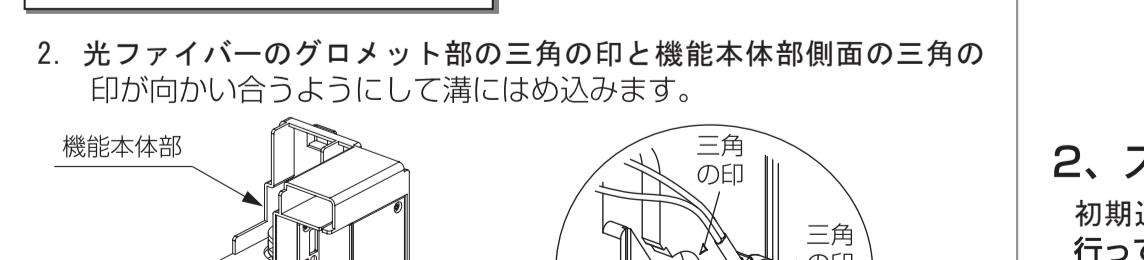
1. 止水栓のキャップと機能本体部の入口側のキャップを取り外し、機能本体部が正面を向くように止水栓のツバと機能本体部のツバが接するまで差し込みます。

[単水栓の場合]



※注意 錆びたストレーナーを外さないでください。
※ストレーナーが漏水の原因になります。

[混合水栓の場合]



※注意 錆びたストレーナーを外さないでください。
※ストレーナーが漏水の原因になります。

3. 光ファイバーを機能本体側のフックに収めます。

△注意

●電源コードはフックに収めないと止水栓の原因になります。
●光ファイバーの曲げ半径は20mm以上にしてください。
●曲げすぎると壊れなくなったり、感知距離が短くなる恐れがあります。

光ファイバー

機能本体部

フック

電源コード

止水栓

機能本体部

固定リング

フロントケース

取付ネジ

止水栓

機能本体部

固定リング

止水栓

ストレーナー

止水栓

水側

湯側

ストレーナー

止水栓

水側

</